

握り手 3

最初に正面から見て親指、4本指の塊、手の平、3つの塊に分け、次に側面から見た親指を分けました。親指は単独の塊なので一番わかりやすい、まずは親指からみていきましょう。形を出すときは、正面と側面それぞれ別々にとらえます。

側面

側面から見た親指の形を書き書きしましょう。四角い木に、親指の先端と肉の部分が接しています。単純化して親指の部分を棒、肉の部分を丸みとしてとらえてみて下さい。その棒と丸みの境目はどこでしょう。親指の付け根、第2関節の位置ですよね。それが分かったら境目に2分位の丸刀をいれましょう。そこから上は棒だから先端までまっすぐ、肉の部分は接している部分につながるように。これで側面の形が出るはずですよ。

正面

形を書いてみて下さい。まず、動かさない部分がわかりますか？木に接しているところ、つまり第2関節の所ですよね。指の先端、第一関節の部分は少し内側に入ります。これで外側の輪郭が決まります。外側が描けたら、それに合わせて内側の輪郭を書きましょう。第一関節は丸い感じ、第二関節の方は割とまっすぐな感じです。描けたら、その形通りに刀を入れ、余分なところをきちっと取りきりましょう。幅と厚みなども整えて下さい。これで、親指はしっかり形が出てきているはずですよ。

親指を他から分ける、これは手を彫る時は握り手にせよ、開き手にせよ常に始めにやるべき重要な作業です。親指がきちんと分けられれば手の平が見えてきます。手の平をいかに正確に出すか、それが手を彫る時の一番重要なポイントだからです。

●手という全体の塊から親指を分ける、分けたものの形を出すときは正面、側面別々にとらえる。とりあえず、今回はこれだけ頭の片隅に入れておいてください。



暑中
お見舞い
申し上げます